

若年性認知症支援力向上研修
実施報告

【日 時】 平成 29 年 7 月 14 日(金) 午前9時 30 分～12 時 30 分

【場 所】 練馬介護人材育成・研修センター

【内 容】 介護サービス事業所における
「若年性認知症の人への支援力向上のポイント」
講師:ミニケアホームきみさんち 理事長／林田俊弘 氏

【参加状況】 参加者:23 名
アンケート提出者:22 名(回収率:95.7%)

1 参加者の属性

通所サービス 介護職・生活相談員	8名	36.4%
居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	4名	18.2%
施設サービス 介護職・生活相談員・機能訓練指導員	3名	13.6%
高齢者相談センター 介護職・その他	3名	13.6%
地域密着型サービス ケアマネジャー・介護職・	2名	9.1%
訪問サービス サービス提供責任者	1名	4.5%
その他(福祉事務所) その他	1名	4.5%

2 講演会の参考度

よく理解できた	15名	68.2%
理解できた	7名	31.8%
理解できなかった	0名	0.0%

仕事によく活かせる	12名	54.5%
活かせる	10名	45.6%
活かさない	0名	0.0%

満足度 10点	11名	50.0%
9点	4名	18.2%
8点	6名	27.3%
6点	1名	4.5%

3 感想（抜粋）

- ⌘ 相手から話し出す間、自己決定をするタイミングを待つことを実践していきたいと思いました。もっともっと生きる力を感じていただけるようにしたい。（同様回答複数）
- ⌘ 先生が事例に挙げられたひとりひとりの方の人となり、背景、対応を自然に考え、振り返っておられたことがすごく勉強になりました。
- ⌘ 若年性認知症の方は認知力、身体能力の急激な低下があり、想像以上に残された時間が少ないということを学びました。（同様回答複数）
- ⌘ “本人の心地良さ”を急いで見極め、対応していくことが重要だと理解しました。
- ⌘ 「ボーっとしていても良い」「表情にフォーカスする」「ファーストコンタクトに集中する」「一緒に未来の話をする」は、大変参考になりました。
- ⌘ アイコンタクトの重要性は参考になりました。“死”についての考え方が変わりました。
- ⌘ 認知症の理解、接し方など参考になりました。（同様回答複数）
- ⌘ 家族への橋渡し、後悔がないようにする支援。
- ⌘ 本人の人権が守られていないということには耳が痛い話でした。「時間の共有」の大切さを改めて知りました。（同様回答複数）
- ⌘ 病気より本人との関係性をつくること。
- ⌘ 単語や表情・非言語に注意して、より利用者様の気持ちに添えるようにしたいと思います。
- ⌘ 認知症の方の心の内面、葛藤を深く考えていきたい。
- ⌘ グループホームの動画をもう少し見たかった。
- ⌘ 認知症の方に関わる時（特に若い人は進行が早いことを知り）、はじめからターミナルケアの視点を持つておくことが必要だと思った。
- ⌘ 認知症の方への気持ちに寄り添いながら支援が出来るよう、もう一度振り返りたい。
- ⌘ 早期に認知症を発症するということに対して、本人や環境を考えることが出来た。また、一般的な認知症についても話が聞け、接し方や心掛けについて考えることが出来た。
- ⌘ 少人数グループホームの事例を多人数サービス（特養、デイ等）にどう変換していくかが課題だと思いました。（どうデイのサービスに繋げていくかが難しい。）
- ⌘ 利用者さんも人間、私たち支援者も人間。理解するって大切だなと思いました。自分も理解してもらえると嬉しいって改めて気づいた…。
- ⌘ 認知症のケア方法として求めていた内容とは少し違った気がしますが、すごく勉強になる貴重な時間でした。
- ⌘ 認知症の方だけでなく、支援のあり方、介護職としての考え方を学びました。（同様回答複数）
- ⌘ 動画の話は評価者研修と同じ内容でした。別の支援方法を知りたかったです。
- ⌘ 若年性に特化した話ではなかった。